

国指定史跡

# 羽山横穴



壁面全景（奥壁）



前庭部から見た羨門



羨道部から見た玄室



白鹿

白鹿は実在しないことから、特別な意味が込められ描かれたと考えられています。



人と馬



一般公開日（見学無料）

4月・5月・9月・10月の第2日曜日

10:00～12:00・13:00～15:00

（但し、翌日が祝日の場合は、祝日が公開日）

# は やま よこ あな 羽山横穴

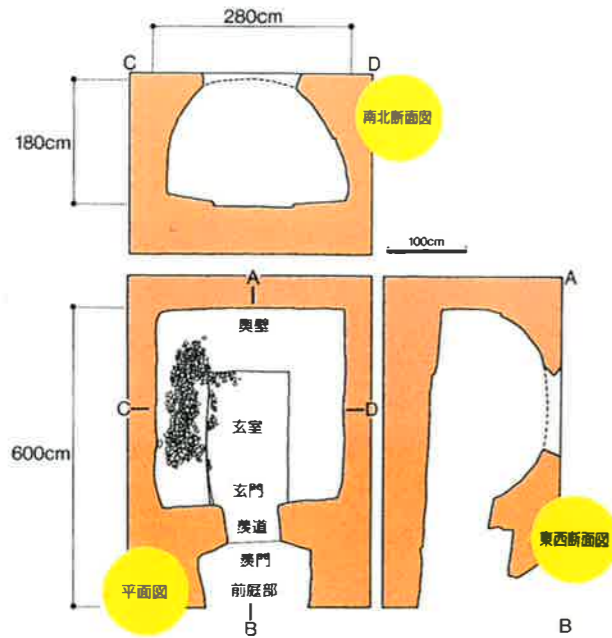
## —古墳時代終末に造られた装飾横穴—

原町区太田川北岸にある羽山丘陵には、20基以上からなる横穴墓群があります。羽山横穴は、この横穴墓群のひとつで、昭和48年5月、宅地造成工事中に発見されました。

発掘調査の結果、羽山横穴は、玄室内部に装飾壁画のある6世紀末頃の横穴墓であることが確認されました。壁画は奥壁・両側壁及び天井部に見られ、渦巻文・人物・馬・白鹿・天文等が描かれています。

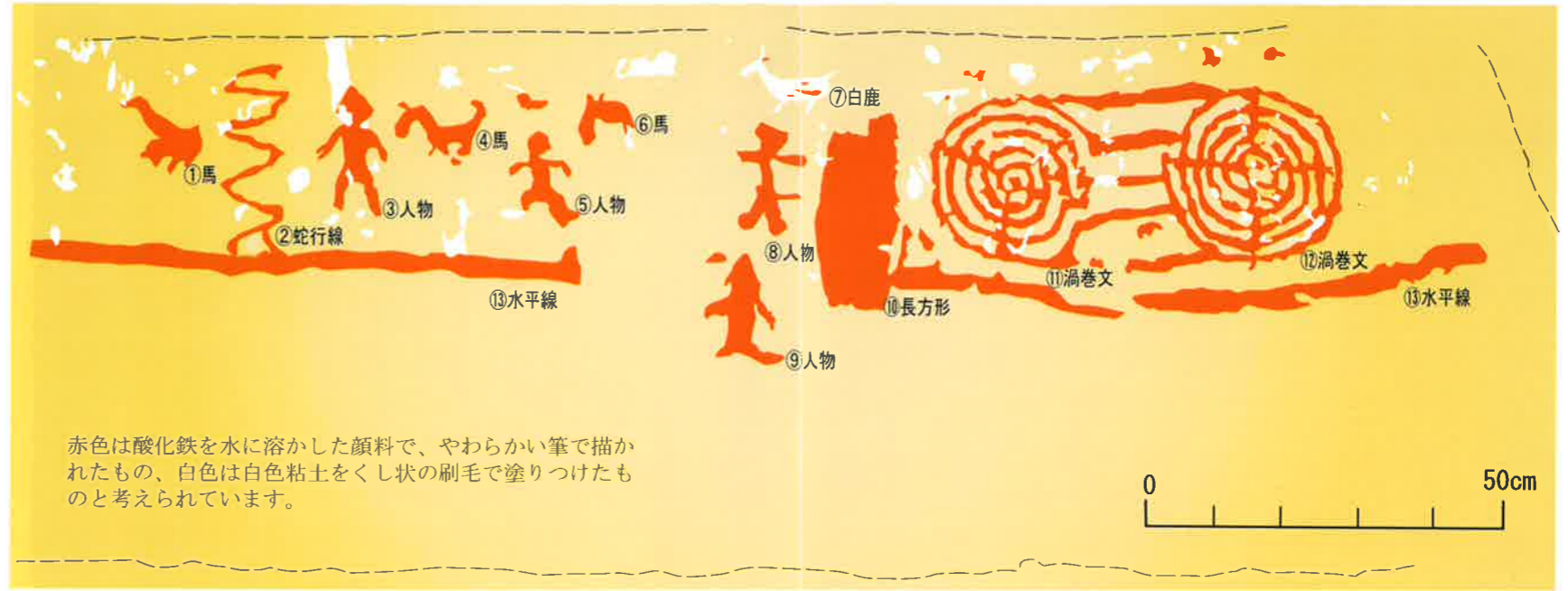
出土品では、土師器・須恵器・金銅装大刀・轡や辻金具等の馬具・ガラス製小玉・青銅製釧などがあります。

装飾された墓は、九州地方や東日本の太平洋岸に多く分布していますが、羽山横穴の壁画は福島県浜通り地方の特色をよく備えており、学術的に貴重な横穴墓です。



### 〔羽山横穴の規模〕

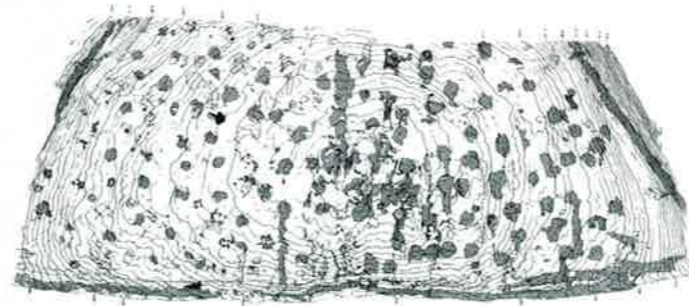
- 全長……8.2m。主軸方向 N81° W。
- 前庭部……長さ3m。幅185cmから292cm。
- 羨門……幅135cm。羨道奥床面で約175cm。全長190cm。
- 玄門……閉塞施設が認められた。
- 玄室……奥行3m。高さ(中央部)180cm。内部は家型。平面プランは方形。
- 奥壁……幅280cm。床面から軒廻りまで高さ約90cm。



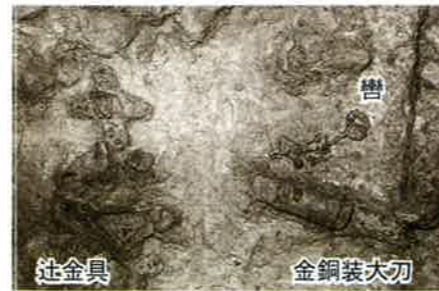
赤色は酸化鉄を水に溶かした顔料で、やわらかい筆で描かれたもの、白色は白色粘土をくし状の刷毛で塗りつけたものと考えられています。

- ① 左向きの馬  
シルエット風の描写。馬の首から頭部だけで、体部は不明。
- ② 蛇行線  
ゆらゆらと大きく蛇行しながら立ちのぼる曲線。何を表現したのかは不明。
- ③ 左足先をひらいた冠帽の人物  
この正面を向いた人物は、右足先を前方に、左足先を左方に出して、活動状態を表わしている。
- ④ 左向きの馬  
脚の下の方は剥落しているが、全身画である。前後脚を前方にのぼして動的状態を表わしている。
- ⑤ 両手両足をひらいた人物  
両手両足を開き、身体を左方に向けて、あたかも疾走しているような動的状態を表わしている。
- ⑥ 左向きの馬  
他と同じようにシルエット風描法だが、首を下に曲げた顔は写実性に優れている。この馬も体部は不明。

- ⑦ 白鹿  
全身を白彩であらわし、斑点を赤彩した鮮明な図である。前後の脚を前方にとぼして疾走する様は心にくいほど写実性に富む。
- ⑧ 刀を帯びた人物  
⑨ 右方に向かう人物  
共に、進む方向に利き足を出し、両手を振って行動している動的状態を表わしている。
- ⑩ 長方形のシルエット  
楯を表現したのものかもしれないが他のものと較べて輪郭がはっきりしない。
- ⑪ 渦巻文(左)  
⑫ 渦巻文(右)  
左右とも右巻五重の渦巻文である。両図文の上縁下縁を赤彩の平行線でつなぎ、その中間に白線を3本入れて両図文の結束を強めている。中心から各4本の放射状直線が出ている。
- ⑬ 水平線  
図文全体の下方に2線にわかれてのびている。



天井文様



遺物出土状況

※南相馬市博物館に、羽山横穴の原寸大模型と出土品が常時展示してあります。



### <問い合わせ先>

南相馬市教育委員会 文化財課  
南相馬市原町区三島町二丁目45番地  
Tel 0244-24-5284  
Email bunkazai@city.minamisoma.lg.jp

### 南相馬市博物館

9:00~16:45 (休館日: 月曜日)  
南相馬市原町区牛来字出口194番地  
Tel 0244-23-6421  
Fax 0244-24-6933